

平成23年11月22日

東日本大震災における広島大学の対応について

第22回学長定例記者会見（平成23年10月25日）以降、広島大学が対応した内容を下記のとおり報告いたします。

本学は、地震により被災された皆様に対して、引き続き、できる限りの支援を行う所存です。

記

1. 医療活動支援関係について

(1) 「三次被ばく医療機関」としての広島大学の活動について

- 緊急被ばく医療チームを編成し、福島県へ連続派遣。

3月12日（土）第1班を派遣し、11月22日（火）現在までに38班、延べ1,126名を派遣しています。

基本チーム構成は、医師2名（うち1名は救急医）、診療放射線技師1名、看護師1名、事務職員2名の計6名で、第13班（4月28日出発）以降は一旦、3名体制としましたが、第19班（5月20日出発）から3～11名体制とし、一時帰宅に伴うスクリーニングに対応するとともに、7月からは福島第一原発内に設置の「救急医療室」への救急医の派遣も行っており、11月からは、看護師も順次派遣しています。

(2) 広島大学病院での被災者医療支援について

内部被ばく特別検診

毎週月曜日午後、予約制によりホールボディカウンタを使用した内部被ばく特別検診を実施（8月1日から受付開始）。

※ 11月21日（月）までの受診者数 42人 【年内予約者55人】

(3) 他機関の依頼による派遣などについて

- 看護師派遣（広島市被災者支援ボランティア本部）

福島県相馬市内の仮設住宅集会所などへ看護師を派遣。

11月5日（土）、6日（日）バイタルチェック（保健学研究科：教授）

- 整形外科医派遣（全国医学部長病院長会議 被災地医療支援委員会）
10月31日（月）～11月11日（金）岩手県陸前高田市（県立高田病院）へ整形外科医を出向派遣（病院：クリニカル・スタッフ（大学院生））。

【本件に関するお問い合わせ先】

財務・総務室 総務グループリーダー 山根
TEL：082-424-6011

2. ボランティア活動について

- 「広島大学震災復興支援ボランティアOPERATIONつながり」が、12月1日（木）から8日（木）まで仙台市若林地区仮設住宅および亘理町仮設住宅において家屋の復旧作業、泥かき、仮設住宅での学習支援などのボランティア活動を実施する予定です。

【本件に関するお問い合わせ先】

教育室学生生活支援グループ 龍王
TEL：082-424-6146

東日本大震災に係る広島大学の対応

※ 更新部分は下線表示

I 支援中又は支援済みの事項

1. 医療活動支援関係

(1) DMAT (災害派遣医療チーム)

3月11日(金)～3月15日(火) 医師2名, 看護師2名, 薬剤師1名を派遣

(2) 緊急被ばく医療対策関係

※ 広島大学は、文部科学省から西日本ブロック地域の三次被ばく医療機関として選定されている。

3月12日(土)に緊急被ばく対策委員会(委員長:神谷緊急被ばく医療推進センター長)を設置し、同日から「緊急被ばく医療チーム」の派遣を開始

○ 3月12日(土)～4月28日(木) … 12班を派遣

・ 班構成 … 6～8人(医師, 診療放射線技師等, 看護師, 事務職員)

・ 派遣期間 … 5～6日

☆ 4月18日(月)に福島大学職員OB(1人)を支援要員として採用

○ 4月28日(木)～5月20日(金) … 6班を派遣

・ 班構成 … 2～4人(医師, 診療放射線技師等, 看護師, 事務職員)

・ 派遣期間 … 5～6日

○ 5月20日(金)～派遣を継続中

・ 班構成 … 3～11人(医師, 診療放射線技師等, 看護師, 事務職員)

・ 派遣期間 … 4～8日 (一時帰宅に伴うスクリーニング及び救急医療室対応を含む。)

※ 3月12日(土)～11月22日(火)までの延べ派遣人数

医 師 … 419人

放射線技師等 … 276人

看護師 … 173人

事務職員 … 258人

合 計 1,126人

※ 「救急医療室」の設置

○ 7月1日(金)から、福島第一原発へ「救急医療室」を設置し、救急医を常駐(48時間交替)させることとなった。

○ 広島大学緊急被ばく医療推進センターは事務局として、放射線医学総合研究所と連携、全国の国立大学などの協力を得て、医師や看護師、放射線管理の専門家の派遣計画の策定や医療備品の整備などを担う。

○ 本学からは、救急医3人が対応

○ 11月からは、看護師も順次派遣

(3) 「三次被ばく医療機関」としての広島大学の活動内容

(上記の医療チームの活動内容を含む。)

- ① 福島県オフサイトセンター（緊急事態応急対策拠点施設）や初期スクリーニング拠点において患者のヘリ搬送，診断，除染を実施
 - ② 患者搬送ルートの概要決定（放射線医学総合研究所と協議）
 - ③ 汚染をスクリーニングする体制整備，スクリーニング法の指導並びに多数の市民及び小児甲状腺のスクリーニング実施 ⇒ 住民の不安軽減や「安心・安全」を提供
 - ④ 福島県立医科大学の医師，看護師等に対する緊急被ばく医療セミナー実施
⇒ 医療従事者が安心して被ばく患者を受け入れられる環境を整備
 - ⑤ 現地にワゴン車 2 台投入による緊急被ばく医療活動の機動力確保
 - ⑥ 緊急被ばく医療活動を支援する備品や食品，水等を寄附（車 1 台分）
 - ⑦ 広島大学を代表して，神谷緊急被ばく対策委員長が次のとおり委嘱を受けている。
 - ・ 平成 23 年 3 月～ 福島県立医科大学理事長付特命教授
 - ・ 平成 23 年 4 月～ 福島県放射線健康リスク管理アドバイザー
 - ・ 平成 23 年 4 月～ 内閣官房政策調査員
 - ・ 平成 23 年 7 月 15 日～ 福島県立医科大学副学長
 - ⑧ 放射線影響研究機関協議会に神谷緊急被ばく対策委員会委員長出席
 - ⑨ 広島大学と福島県立医科大学との連携に関する協定（教育研究診療の進展，被ばく医療・放射線影響に係る研究拠点の形成等）締結（浅原広島大学長出席）
 - ⑩ 活動拠点を福島県オフサイトセンター及びジェイビレッジから福島県立医科大学に移転（緊急被ばく医療チーム編成を縮小；4月28日）
 - ⑪ 福島第一原発から 20 km 以内への住民の一時帰宅に伴う放射線測定要員に対する指導的役割を担う要員派遣
 - ⑫ 神谷緊急被ばく対策委員会委員長による「原子力災害における放射線の健康影響」等の講演（8月30日（火）現在）
 - 福島県における講演（33回，約9,400人）
（委員長代理（細井教授）実施分（2回，約1,100人）を含む。）
 - 福島県以外での講演（9回，約1,500人）
 - ⑬ 広島大学と福島大学との連携に関する協定（教育や研究の発展，放射線に汚染された環境修復，放射線医療の研究や支援，放射線医学のリテラシー教育等の充実等）の締結（浅原広島大学長出席）（7月28日）
- (4) 広島大学病院での被災者医療支援関係
- ① サーベイ検査
これまで，34人に対して実施（広島県警察機動隊の帰還隊員の検査についても，警察学校において別途実施）
 - ② 内部被ばく特別検診
毎週月曜日午後，予約制によりホールボディカウンタを使用した内部被ばく特別検診を実施（8月1日から受付開始）
※ 11月21日（月）までの受診者数 42人
- (5) 他機関等の依頼による派遣等
- ① HICARE放射線量測定チーム（広島県）
 - 3月16日（水）～22日（火）福島県においてスクリーニング検査（技術センター 技術専門職員 参加）

- ② 歯科医師の派遣（警察庁）
- 4月8日（金）～14日（木）歯科医師3人が宮城県内において遺体身元確認（検視）に従事（医歯薬学総合研究科：准教授，特任助教，病院：助教）
- ③ 京都大学原子炉実験所（広島市受託研究費）
- 3月28日（月）～30日（水）栃木県・福島県の各地において緩急放射線モニタリングを実施（工学研究院：准教授）
- ④ 核物理研究者チーム（大阪大学核物理研究センターが代表）
- 3月25日（金）～30日（水）福島県においてスクリーニング検査等（原爆放射線医科学研究所：教授，助教）
 - 4月19日（火）～22日（金）福島県においてスクリーニング検査等（工学研究院：特任教授）
- ⑤ 東北関東大震災復興支援特別委員会（公益社団法人日本心理学会）
- 当該委員会の委員への就任（任期 4/9～翌年 3/31；教育学研究科：准教授2人）
- ⑥ 宮城派遣一次隊ボランティア派遣（社団法人日本理学療法士協会）
- 4月16日（土）～23日（土）生活機能対応専門職チームとして生活不活発病に対するアプローチなど（保健学研究科：教授，ボランティア特別休暇）
- ⑦ 広島医療チーム（広島県）
- 4月24日（日）～4月30日（土）福島県須賀川市の避難所等において診療活動を実施（医歯薬学総合研究科：特任助教，病院：講師，助教，看護師2人，事務）
- ⑧ 薬剤師派遣（日本病院薬剤師会）
- 4月4日（月）～4月11日（月）岩手県立大船渡病院及び避難所において調剤業務（病院：薬剤師）
 - 4月24日（日）～5月1日（日）岩手県立大船渡病院及び避難所において調剤業務（病院：薬剤師）
 - 5月1日（日）～5月7日（土）岩手県立大船渡病院及び避難所において調剤業務（病院：薬剤師）
- ⑨ 医療スタッフのボランティア派遣（日本プライマリ・ケア連合学会）
- 宮城県石巻市（病院及び避難所）へ看護ケア担当者（教員，院生，研究補助者）を順次派遣。（6月3日（金）～9月末日）
 - ・ 6月3日（金）～5日（日）（保健学研究科：教授，ボランティア特別休暇）
- ⑩ 福島第一原発の事故が健康に与える影響（英語版）資料提供（国立大学協会）
- 留学生・外国人研究者向け講演資料を国大協に提供。（特に，関東地域大学の留学生への説明に使用。）（原爆放射線医科学研究所：稲葉教授（緊急被ばく医療対策委員会委員）作成）
- ⑪ 震災・津波復興のための海外調査員派遣（水産庁）
- 5月29日（日）～6月2日（木）タイ王国において，震災・津波復興のための調査を実施（生物圏科学研究科：教授）
- ⑫ 津波被災マップ作成チーム（日本地理学会）
- チームの一員として，「東北地方太平洋沖地震に伴う津波被災マップ」を作成した。3月29日（火）以降，順次同学会等HP（日本語，英語，電子国土 Web システム及びeコミマップの各ページ）で公開（文学研究科：准教授〔学生も協力〕）
- ⑬ 放射線に関する講演講師派遣（宮城県登米市）
- 8月19日（金）登米市において認定農業者を対象に「放射線の基礎と宮城の汚染」

についての講演を実施（工学研究院：准教授）

⑮ 産科医派遣（日本産科婦人科学会）

- 9月17日（土）～23日（金）岩手県石巻地区の産科拠点病院へ医師2名を派遣

⑯ 看護師派遣（広島市被災者支援ボランティア本部）

- 福島県相馬市内の仮設住宅集会所等へ看護師を派遣
 - ・ 8月26日（金），27日（土）現地での打合せ（保健学研究科：教授）
 - ・ 9月17日（土），18日（日）バイタルチェック（保健学研究科：教授）
 - ・ 11月5日（土），6日（日）バイタルチェック（保健学研究科：教授）

⑰ 放射能土壌汚染に関する講演講師派遣（放射能土壌汚染セミナー）

- 8月21日（日）大阪大学中之島センターで開催のセミナーにおいて「広島原爆やチェルノブイリを踏まえた福島の放射能土壌汚染修復の道筋」についての講演を実施（原爆放射線医科学研究所：教授）

⑱ 母乳の放射線測定（市民団体「繋がろう広島」）

- 9月30日（金）広島県へ自主避難している方の検体（東京都，神奈川県からの4人の母乳）と比較のための検体（広島市，福山市在住の2人の母乳）を受領，検出器により測定を実施（工学研究院：教授）

⑲ 医療スタッフ派遣（日本プライマリ・ケア連合学会）

- 福島県南相馬市（市立総合病院）へ理学療法士・作業療法士を派遣
 - ・ 9月18日（日），19日（月）現地での打合せ（保健学研究科：教授）
 - ・ 10月4日（火）～7日（金）理学療法業務（保健学研究科：助教）

⑳ 整形外科医派遣（全国医学部長病院長会議 被災地医療支援委員会）

- 10月31日（月）～11月11日（金）岩手県陸前高田市（県立高田病院）へ整形外科医を出向派遣（病院：クリニカル・スタッフ（大学院生））

2. 災害救援物資の支援関係

- ① 3月19日（土）災害救援物資（食料品，医薬品，携帯カイロ，ストーブ，カセットコンロ，乾電池，生活雑貨など11tトラック2台分）を発送（3月22日（火）東北大学及び福島大学へ到着）
- ② 4月14日（木）東北大学歯学部から依頼のあった救援物資（義歯洗浄剤 300個，義歯ケース 300個）を発送
- ③ 4月26日（火）岩手県大槌町の教育委員会から支援要請を受け，救援物資（箸，ちりとり各30）を発送
- ④ 5月31日（火）岩手大学から依頼のあった情報機器（ノートパソコン 17台，プリンタ 6台，スキャナ 2台，ネットワーク機器 5台）を発送
- ⑤ 6月15日（水）宮城県石巻北高等学校からの支援要請を受け，救援物資（電気スタンド6台，鉛筆削り1台）を発送
- ⑥ 8月19日（金）宮城県石巻市立相川保育園からの支援要請を受け，救援物資（パソコン用ソフトウェア 2個）を発送

3. 被災者受入対応関係

- ① 法務研究科において東北学院大学の法科大学院生（3年）1人を受入
受入期間 … 4月5日～5月6日

宿泊施設 … 病院レジデントハウスを提供（無償）

- ② 国際協力研究科において東北大学大学院の学振特別研究員（本学（国際協力研究科）で学位取得）1人を受入

受入期間 … 3月21日～4月22日

宿泊施設 … 山中会館を提供（無償）

- ③ 生物生産学部において北里大学海洋生命科学部の学生（4年）1人を受入

受入期間 … 6月1日～平成24年3月31日（予定）

宿泊施設 … 池の上学生宿舎を提供（無償）

4. 放射線量等測定支援関係

- ① 広島大学東広島キャンパス内における大気中の放射性物質の測定

○ 工学研究院（静間 教授）が、3月20日（日）から測定を実施・公表

○ 4月27日以降（5月8日まで）放射性物質が検出されていないため5月9日から週1回の測定

- ② 文部科学省の依頼により、ポケット線量計を屋外に設置、4月12日（火）から積算線量を毎日14時に測定・報告。8月10日以降は、週1回の測定・報告。（自然科学研究支援開発センターアイソトープ総合部門）

5. 義援金募金活動

- ① 「いろは」（職員向け情報ポータルサイト）、「もみじ」（学生向け情報ポータルサイト）及びHPに協力要請記事を掲示、各室・部局等に対して協力を要請（3月15日）

- ② 3月中に寄せられた義援金

15,092,249円（4月8日 日本赤十字社広島県支部へ振込）

- ③ 4月中に寄せられた義援金

4,048,112円（5月16日 日本赤十字社広島県支部へ振込）

- ④ 5月30日（月）午後

義援金（合計 19,140,361円）の「目録」を日本赤十字社広島県支部へ贈呈

なお、義援金活動は8月31日まで行うこととした

- ⑤ 5月1日～8月31日までに寄せられた義援金

682,387円（9月16日 日本赤十字社広島県支部へ振込）

義援金 総額 19,822,748円

6. 教職員・学生の安否確認及び支援等

(1) 安否確認

- 教職員及び対象学生553人全員の無事を確認（3月23日）

(2) 家屋等の被災状況確認

- 在学生20人、新入生5人、教職員4人（4月1日現在）

（在学生のうち1人（3月卒業）は、新入生（大学院生）にも重複カウント）

- 主たる家計支持者の自宅が全半壊した者（5月20日調べ）

学部生5人（うち新入生2人）、大学院生2人

- 主たる家計支持者が失業又は就業見込みが立たない者 (5月20日調べ)
大学院生1人

(3) 被災学生への支援

- 入学料及び授業料の免除申請があった学生を全額免除
 - ・ 入学料全額免除 1名 (5月31日決定)
 - ・ 授業料全額免除 13名 (7月6日決定)

7. ボランティア派遣

- 学生ボランティアの派遣

「広島大学東日本大震災復興支援ボランティア計画」として学生26名を派遣、災害復興支援団体「L&D仙台」(大学生中心のボランティア団体)と連携し、仙台市内において被災者支援活動(子供への学習支援、清掃等)を行った。交通費等は大学が負担。(派遣期間:9月14日~9月20日)

8. 広島大学福島原発事故関連放射能環境調査チーム(学術室)の活動

- ① 工学研究院 教授を, 9月28日(水), 29日(木) 福島県南相馬市へ派遣, サンプルングと講習及び講演会(市議会講堂)を実施
- ② 工学研究院 教授, 准教授, 生物圏科学研究科 准教授を, 10月19日(水), 20日(木) 福島県南相馬市へ派遣, 大気ダスト及び土壌のサンプルングと講習を実施

II 支援に向けて準備済みの事項

1. 医療活動支援関係

- (1) 広島大学病院での被災者医療支援関係

- ① 除染設備の仮設配管及び貯留設備の整備(3月17日完了)
- ② 広島県内6病院の連携による被ばく患者の受入れ体制の構築
(広島大学は, 重症4床, 中症4床を確保し, 未除染患者も受入れ可能)

2. 被災者受入対応関係

- (1) 被災者用宿舎の提供準備

- ① 文部科学省からの依頼により看護師宿舎(8室)及びレジデントハウス(19室)を提示

- (2) 被災地の国立大学在学中の外国人留学生の一時待避受入れ準備

- ① 国立大学法人理学部長会議構成大学(32大学)において対応が検討され, 理学研究科で受入れ支援を行うこととした。
- ② 受入人数: 10名(山中会館に2人分確保。他は民間等を予定)
- ③ 受入期間: 3月22日(火)~3月31日(木)

- (3) 東北・関東地区の大学に在学中の学生及び入学予定者に対する本学図書館の利用便宜
(3月18日 HPへ掲載)

- (4) 被災地の学生・研究者受入体制

- ① 理学研究科附属臨海実験所において被害を受けた各大学の臨海実験所等関係者に対する宿泊施設（無償）、実験室（実習のある8、9月を除く。）を提供する旨をマリンバイオ共同推進機構（JAMBIO）のHPへ掲載（4月8日）
- ② 文部科学省（学術機関課）から照会に対して放射光科学研究センターにおいて共同利用・共同研究の受入可能を回答
- ③ すべての学部・研究科において被災地域の学生に対する講義の履修、聴講等及び宿泊施設を無償で受入・提供する旨をHPへ掲載（4月12日）
- ④ 被災地域の大学のみならず、計画停電等による影響が懸念される関東以北の大学等の研究者に対して研究スペース・研究装置等の利用等可能な支援を行う旨をHPへ掲載（4月12日）

(5) 情報機器利用提供

被災地域の大学の学生（入学予定者を含む。）・教職員に対する広島大学教育用情報端末及びネットワークの利用便宜（3月30日 HPへ掲載）

(6) 教育・心理相談提供

教育学研究科では、被災した幼児・児童・生徒と保護者・教師を対象とした教育・心理相談を実施（7月26日 HPへ掲載）

文部科学省「子どもの学び支援ポータルサイト」へ登録（9月12日）

(7) イベントへの招待

「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」プログラムの【「たたら」の中に生まれる「鉄」、そして「宇宙」の中に生まれた「地球」（9月10日開催：生物圏科学研究科）】へ、被災地から広島県に避難している小学校5・6年生、中学生、高校生20人を招待予定（8月17日 広島県へチラシ等配付を依頼）（申込者なし）

3. 技術者等の派遣関係

(1) 応急危険度判定士の派遣準備

文部科学省からの依頼により、被災文教施設応急危険度判定士の資格を有する職員3人の派遣を準備。

(2) 技術職員の派遣依頼

全国施設担当部課長会（会長：東京大学長）からの依頼により、被災大学等への技術職員の派遣を準備。

4. 放射線量等測定支援関係

(1) 放射能機能測定可能施設の情報提供

- ① 文部科学省へ「緊急時における食品の放射能測定マニュアル」（H14.5.9 厚労省）に示すNaI（TI）シンチレーションサーベイメータの本学の保有状況（8台）を情報提供
- ② 「緊急時における食品の放射能マニュアル」に示す6種類の分析のうち3種類の分析が実施可能である旨を回答（自然科学研究支援開発センターアイソトープ総合部門）

(2) 空間放射線量率調査の実施地点拡大に伴う協力

- ① 文部科学省からの「都道府県別環境放射能水準調査」の放射線量率調査実施地点の拡大に伴う協力依頼に関し、自然科学研究支援開発センターアイソトープ総合部門において実施可能である旨を回答

5. 被災学生に対する支援関係

平成23年3月14日（月）に経済的な相談に応じる窓口及び学生ボランティア登録窓口を開設するとともに、池の上学生宿舎（男女各5室、計10室）を確保

※ 「もみじ」（学生向け情報ポータルサイト）及びHPに掲載

III 支援体制・広報等

1. 危機管理・災害対策本部

平成23年3月14日（月）9：00設置（学長（本部長）、理事、副学長 ほか）

2. ホームページによる情報発信

- (1) 3月15日（火）本学ホームページのトップページに「東北地方太平洋沖地震に関する緊急のお知らせ」（現在：東日本大震災に関するお知らせ）をアップし、学生、留学生、新入生、保護者等への情報、放射線に関する基礎的な情報等、本学が支援に向けて準備済みの事項等の情報を発信。

※ 英語及び一部中国語にも対応

- (2) 4月19日（火）から、広島大学のウェブサイトとは独立した震災支援用の無償クラウドサービス（ポータルサイト）を利用して、PCや携帯電話から直接アクセスができる「放射能対策基本情報ポータルサイト」を立ち上げ、英語及び中国語にも対応した情報を発信している。

3. その他

留学生や外国人研究者及びその家族に対する放射能汚染に関する正確な情報伝達のため、東広島地区及び広島地区において英語による講演会を実施

- 第1回 東広島キャンパス（サタケメモリアルホール）

2011年4月19日（火） 18時～午後19時30分

- 第2回 霞キャンパス（医学部第1講義室）

2011年4月20日（水） 18時～午後19時30分

- 第3回 東広島キャンパス（総合科学研究科L102講義室）

2011年4月22日（金） 18時～午後19時30分

※ 3日間で、延べ約80人の留学生や外国人研究者が参加

以上